

下京雅学校だより

全国学力・学習状況調査分析

令和8年8月 京都市立下京雅小学校

<めざす子ども像>

すすんで学び、問い続ける子ども

相手を大切にし、共に高め合う子ども

自分を大切にし、夢に向かって挑戦する子ども

4月23日(木)に、本校6年生を対象に実施しました「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査では、国語・算数の学科テストと合わせて、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されました。全体の傾向や課題等、本校の子どもたちの状況をお伝えさせていただきます。

国語科

全国および京都府の公立小学校の平均正答率を上回る結果となりました。特に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった『思考力、判断力、表現力』の観点において、よい結果が見られました。

特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で高い成果が見られ、文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて表現する力や、相手に伝えるように構成や表現を工夫する力が身に付いているといえます。また、記述式問題でも全国平均を上回っており、自分の考えを言語化する力が育成されています。

一方で、情報と情報との関係を捉えたり、根拠と理由を結び付けて考えたりする力には課題が見られ、今後は情報を整理・比較しながら思考を深める学習の充実が求められます。

全国的に、国語科では、“文章を引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること”、“文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする”に課題が見られました。

自分の考えを伝える際に、“考えと根拠を区別して表現すること”、“考えと根拠を結び付けて分かりやすく伝えること”などを意識することが重要です。今後も、文章中の言葉や表現を根拠として活用しながら、自分の考えを筋道立てて説明する力の育成に取り組んでいきます。



算数科

全国および京都府の公立小学校の平均正答率を大きく上回る結果となりました。全体的によくできており、特に「数と計算」「測定」において高い成果が見られました。

基礎的・基本的な知識や技能が定着していることに加え、理由や考え方を説明する記述式問題や思考・判断・表現を問う問題においても全国平均を大きく上回っており、自ら考え、根拠をもって説明する力が育成されていると考えられます。

一方で、割合の理解や複数の情報を関連付けて考える問題、データを読み取って判断する問題には課題が見られました。今後は、日常生活と結び付けながら数量の関係を多面的に捉え、活用する学習の充実を図っていくことが求められます。

全国的に、算数科では、“立方体の体積の求め方の理解や基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること”に課題が見られました。また、2直線が平行になる条件の理解に課題が見られました。

図形において、具体的な活用場面を通じて理解を深めることや、量と割合の違いについて図で表現するなどしながら理解を深めることが重要です。今後も、具体物や図を活用した学習を通して理解を深めるとともに、「なぜそうなるのか」考え方の根拠を分かりやすく説明できる力を育てていきます。



今後に向けて

ご家庭では、読んだ本や学校での出来事について子どもが自分の考えを話す機会を大切に、「なぜそう思ったの?」と理由を尋ねる対話をされることもよいと思います。

また、買い物や料理など日常生活の中で割合や数量について考える機会を設けたり、新聞やインターネットの記事と一緒に読みながら内容について話し合ったりすることで、情報を整理して考える力や活用する力を育てていけるようにされることもよいと思います。

児童質問紙調査より

〔学習意欲、学習方法、学習環境および家庭生活の諸側面等に関する質問紙調査です〕

**** 成果が見られます ****

① 自己肯定感・自己有用感



「先生がよいところを認めてくれている」「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「友達関係に満足している」などの質問では、全国や京都府の公立小学校の回答率を大きく上回っていました。本校の児童は、ある程度の自己肯定感をもっていたり、現在の学校生活におおよそ満足できていたりしている様子が伺えます。



② 主体的・対話的な学び

「課題解決に向けて自分から取り組んだ」「話し合いで考えを深めている」などの質問では、全国や京都府の公立小学校の回答率を上回っていました。課題に主体的に取り組む、友達との対話を通して考えを深める学習が定着している。こうした学習経験が、国語の「話すこと・聞くこと」や算数の説明・記述問題における高い成果につながっていると考えられます。

……よりよくしていきたいです……



① 読書習慣・情報に親しむ力

「休み時間に学校図書館に行きますか」「休みの日に地域の図書館に行きますか」の質問については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答率が全国平均と同等でした。

読書は、語彙力や表現力を育てるだけでなく、想像力や感性を豊かにし、心を育てる大切な活動です。学校では、メディアルームの活用、読み聞かせやおすすめ本の紹介など、読書を楽しむ活動を通して、「本って面白い!」と感ぜられるような取り組みを進めていきたいです。ご家庭でも、「最近読んだ本は?」「どんなところが面白かった?」など、読書について話す時間を持っていただけると嬉しいです。



② 将来の夢や目標を描く力

「将来の夢や目標を持っていますか」の質問については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答率が全国平均よりやや下回りました。上述のように、「人の役に立ちたい」という回答は「当てはまる」が多かったため、『将来の夢や職業はまだ具体的に描けていない児童もいるが、社会や周囲の人のために役立ちたいという意識は高い。』といえるのではないのでしょうか。学校での集団生活において、多様な考え方や生き方、働き方に触れる機会を充実させ、自分のよさや可能性と将来の姿を結び付けて考える力を育てていければと思います。ご家庭でも、「将来どんなことをしてみたい?」「今好きなことは何?」など、日々の会話の中で夢や目標について話す時間を持っていただけると、子どもたちの意欲や自己肯定感の向上につながります。

保護者の皆様へ

本調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくものです。本調査において、本校の児童は自己肯定感や学校生活への満足感が高く、友達関係や学級の雰囲気や肯定的に捉えている児童が多く、**安心して学べる環境の中で学習に取り組んでいる様子**がうかがえます。さらに、課題解決に向けて主体的に取り組むことや、ICTを活用した学習への意識も高くなっています。こうした対話的・協働的な学習環境が、国語や算数における思考力・判断力・表現力の向上につながっていると考えられます。

一方で、読書や新聞などを通して継続的に情報に触れる習慣については、さらなる充実が期待されます。読書活動を通して語彙力や読解力を高めるとともに、多様な情報に触れながら自分の考えを形成する力を育てていきたいです。

この結果が学力の全てを表しているのではなく、また、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤となります。今後も、学校・家庭・地域が連携し、子どもたち一人一人が未来に希望をもち、自分の夢に向かって自ら道を切り拓いていく力をつけていきたいと考えています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。